

3 自然再生・循環社会対策特別委員会における柳下礼子県議の質疑

2013年12月18日

◆審査事項「川の再生について」

Q. 柳下礼子委員

1. 東川の地下河川が完成したが、今後河川環境整備を行っていくのか。
2. 柳瀬川は水辺再生100プランで整備したところであるが、今後、市とどのように連携していくのか。
3. 高麗川の中着田に行くと、駐車料金を取られる。お金がない人も楽しめるようにしてほしいと考えるがどうか。
4. 環境基本計画では、アユが棲める水質の河川の割合を平成28年度までに90%にするとの目標を掲げているが、目標達成の見通しはどうか。
5. 国土交通省が公表している全国水質ワースト5河川に綾瀬川・中川が該当しているのを、平成28年度に該当河川なしとするとの目標を掲げているが、目標達成の見通しはどうか。
6. 生活排水処理率を平成28年度までに92%とするとの目標を掲げているが、目標達成の見通しはどうか。
7. 水害に強い河川づくりも必要だが、もっと親しめる河川づくりを進めるべきと考えるがどうか。

A. 水辺再生課長

1. 東川については、当面のところ河川環境整備の予定はない。
2. 柳瀬川については、水辺再生100プランで上流部の240mの区間を魚が住みやすい環境にするために整備した。現在も検討会が続いており、市と一緒に、更なる改善に努めている。
3. 高麗川については、川のまるごと再生プロジェクトで市と検討会を一緒に行っているため、この話があったことを地元市に伝える。

4. アユが棲める水質は、BODの年平均値が3mg/L以下という、かなり厳しい目標を定めている。平成22年度の77%から平成24年度は66%となっているが、気象条件による一時的な低下と考えている。河川の汚濁負荷を削減するため、生活排水対策を進め平成28年度の目標達成に向けしっかりやっていく。
6. 生活排水処理対策については、平成24年度末で88.7%まで上がっている。計画は平成24年度に始まったばかりであり、合併処理浄化槽の普及や公共下水道の整備と合わせ目標達成は可能と考えている。

A. 環境部長

5. 綾瀬川と中川はBODが3.9mg/Lと国土交通省が管理する1級河川でワースト1位・2位と不名誉な状態にある。

これを一気にワースト5から脱却させるのは難しいため、第1段階としてワースト1位・2位から脱却することを目指し、BOD2.9mg/Lを目標に取組を進めている。

合併処理浄化槽、下水道、生活排水対策は市町と一緒にやる必要があるため流域の24市町と「綾瀬川・中川水質改善流域協議会」を設立し、取組を進めているところである。

A. 県土整備部副部長

7. 河川整備については、自然環境にも配慮した多自然川づくりの考え方で進めている。

Q. 柳下委員

高麗川の中着田についての質疑の補足だが、観光地化されることで有料駐車場ができる等、気軽に訪れることができなくなる可能性があるため、なるべく県民の負担が増えないよう配慮すべきではないかと考える。市町村との調整等もあるかと思うが、どうなのか。

A. 水辺再生課長

利益を得るために川の整備をすることはない。
その地区をどのようにまちづくりに使うかにより、
例えば駐車料金が発生する場合もあるのが実情で
ある。その辺のところは県と市町村でよく調整し
ていきたい。